

## 【イエス様の十字架の御力、その罪赦しと愛】



今日の聖書本文:イザヤ書53章4-6節/ 暗唱聖句:第一ペテロの手紙2章22、24節 説教者:鄭南哲牧師

おはようございます。シャローム！一週間も主の平安でみなさんの心と体が守られましたか。

今週から我々は主イエスキリストの受難週間を過ごす事になります。我々がイエスキリストを正しく信じ、正しく愛するためにはイエスキリストの受難と十字架の意味を正しく知り、信じなければなりません。我らの救い主イエスキリストご自身のあやまちや罪があったためなく、神の前で罪人たちである我々の罪の御代わりになり、我々のすべての罪を背負い、罪の代価を支払って下さったからです。ですからイエスキリストのこの苦難と十字架は今日私たち一人一人と関係がある出来事であります。

どなたが**第一ペテロの手紙2章22、24節**を読んでいただきませんか。

“キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされませんでした。そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。”

私はある学生に伝道した時、今は教会には通ってないですが、もともとその学生は中高生のごろまでは、教会に通っていたその学生の話をお忘れられません。“私は教会に通う時まで教会の中で本当にイエス様を信じているように見える人を一人も会いませんでした。。それまで自分の熱心によって教会に通う人々はよく見ましたが。”

愛するみなさん！我々が礼拝に参加したり、神様の御言葉を学んだり、祈る理由は何か特別なことのためではありません。神様は私と皆さんに向かって我々の信仰生活の目標が‘ただ教会に通ういわゆる宗教活動をきちんとする人’ではなく、‘**イエスキリストを信じる人**’になることを切に望んでおられていると信じます。ですから、‘**我々みんなが本当にイエス様を信じる人になる事**’、これがまた我々の教会がめざして行くべき教会の目標になるべきだとそう信じております。

我々の周りの人々は我々が教会に通うことについてあまり考えていないか、却って良いふうを考えてない場合があります。それは教会に通う人々の生活の態度がクリスチャンとして模範になってないか、我々が彼らとの生活と差があまり見えないからではないでしょうか。神様が今日も注目し、喜んでくださる人々はただ教会に通う人たちではなく、イエスキリストを本当に信じる人々です。すなわち、イエス様を心から信じているがゆえに救いの確信と回復と御力が生活の中で豊かに表されているイエスキリストの弟子たちです。

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！それではどうやって真にイエス様を信じる人になると思いますか。それはイエスキリスト様の十字架の真の意味とその力を信じる時にこそ、イエスキリストを真に信じる人になると信じます。それで、使徒パウロは**第一コリント人への手紙1章18節**で“**十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私たちには、神の力です。**”と宣言しています。

イエスキリストの十字架が、信じられず、断りつつ滅びに至る人々にはただ愚かな出来事でしか見えなくても、イエス様を信じ、従う人々に、真のクリスチャンたちには救いの神の救いの力になるのだと教えて下さっています。イエスキリストの十字架の御力を知らないからイエスキリストを正しく信じる事ができないのです。

多くの人々がまだイエスの十字架をただ宗教的な象徴として知っています。十字架の御力を知らなければ、教会に通っている人にはなってもイエスを正しく信じている人にはなれません。なぜならそれは信仰の生活ではなく宗教活動だからです。

イエス様の十字架を見あげている人々に二つの部類があると言っています。一つの部類は十字架が‘愚かなもの’そして、もう一つの部類は十字架が‘神の力’だと信じていました。

19世紀旧ソ連(ロシア)ではクリスチャンが9000万人、聖職者が6万人がいました。しかし、当時 5万4000人にすぎない共産党に国が動かされてしまいました。十字架をみあげるだけで、十字架の御力を知らなかったから起こった出来事でした。

私たちはお金の力はよく知っています。子どもでもよく知っています。お金は力があります。すると十字架の力は何でしょうか。いくら十字架をみあげてもわかるようですが、わからないような気もしませんか。

**それではどうやって我々はイエス様を確実に信じる者になれるでしょうか。**それはイエスキリストの十字架の御力を知らなければなりません。イエスキリストの受難週が始まる今日もう一度覚えて主イエスキリストの十字架の力は何にであるか覚える時間となりますように祈ります。

「**イエスキリストの十字架の御力**」

〈1.イエスキリストの十字架の力は罪を悟らせる力です！〉

イエスキリストの十字架の力それは何か、今日まずこの一つを覚えておきましょう。イエスキリストの十字架の力を知っている人は**自分がどれだけ罪人であるのかがわかります。**

愛する信仰の家族のみなさん!イエス様はなぜ、どうして十字架で死なれましたか。私たちの罪のためではありませんか。そういうわけで、生まれ変わったクリスチャンは十字架を通して自分の罪深さを見ることが出来ます。これを悟ることがどれだけ大きい十字架の力なのか分かりません。実際に主の十字架を通してイエス様に出会っていない人は自分の罪深さを気づく事も、見る事もできません。多くのクリスチャンが自分が‘罪人’であることを告白していますが、自分が生きておられる全能の神前で本当に罪人なのか、どれだけひどい罪人なのかわかっていない人はそんなに多くないと思います。

みなさんがもし、我々も自分の罪を気づかない時には、罪を犯している人に対してどれほどひどく怒ったり、批判したかも知れませんが。“あの人は最低じゃないの”だと。じゃ、愛するみなさんは、主の御前で私たちは自分の罪をどれほどよく悟り、わかっていますか。

聖書に信仰の人として有名なダビデ王は彼の部下であるウリヤの妻バテ・シェバと姦淫を犯した後、自分の罪を隠すために忠実な部下だったウリヤまでも死なせました。彼は自分が犯した罪が神様の御前でどれだけ大きい罪なのか自分が犯していても気づきませんでした。その時、預言者ナタンを通して、おびたしい羊の群れを持っているある金持ちが貧しい人の羊までも奪ってお客さんにもてなしをしたという話を聞いても自分がそのようである事をすぐ気づかずにダビデはその金持ちの人の罪に対して怒ってました。事実、ナタン預言者はダビデの罪を指摘したのにダビデ王はまさか自分のことだとは夢にも思いませんでした。ほかの人の罪はよく見えるのに、自分の罪には鈍感であり、全然気づいてないそれがダビデの姿であり、さらに罪人である我々の姿ではないでしょうか。

ルカの福音書5章8節で、イエス様のお言葉にしたがってたくさんの魚をとったペテロは喜んでおどったのではなく、むしろイエス様にひざまずいて自分が罪人だと告白しました。“主よ。私のようなものから離れてください。私は、罪深い人間ですから。” どうしてこのようなことが起きるのでしょうか。彼が突然もつと罪を犯したからですか。イエスさまの御言葉を通して恵みを経験した瞬間、霊の目が開かれ、イエス様がどんな方であるのか、そして、自分はどれほどの罪人であるか、本当の自分を悟ったからです。イエス様を十字架につけた人々は自分がどれだけひどい罪をおかしているのか分かりませんでした。そのため、イエス様は十字架の上でこう祈られました。“父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。(ルカの福音書23:34)”

使徒の働きを読んで見ますと、イエス様が復活された後、五旬節を迎えた弟子たちはイエス様が約束された聖霊を受けました。聖霊に満たされたペテロはイエス様を十字架につけた人々に向かって次のように叫びました。“神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。”(使徒の働き2:36) その瞬間ユダヤ人たちは痛烈(つうれつ)な罪責感を感じました。彼らは自分たちが犯した罪を悟り、“わたしたちはどうしたら、よいでしょうか(使徒の働き2:37)”と泣きながらペテロの前に出て悔い改めイエス様を受け入れた者が3000人ほどであったと記されています。十字架のイエス様に出会う恵みの瞬間を迎えたのです。

愛する信仰の家族のみなさん! 自分の罪を悟る時こそ霊的いのちの始まりです。これがまさにイエスキリストの十字架の力です。自分がどんなに罪人であるかをさとること、これがまさに生まれ変わることの始まりなのです。世界の多くの神のリバイバルはイエスキリストの十字架の力によって自分の罪を悟らせ、認め、告白し、悔い改める事から始まりました。

\* 今週我々の罪を赦すために多くの苦難と十字架の御苦しみを受けられた主イエスキリストの恵みを覚え、感謝し、礼拝する週間であります。特別早天祈り会がある一週間、共に御言葉と祈りを持って敬虔に主と共にすごす事ができるように祈ります。特にイエスキリストが十字架につけられた聖金曜日には一食でも、一日でも断食しながら、祈る時を持っててもいかがでしょうか。

### 適用:<1-2.十字架の御力を信じて経験した人はほかの人も裁きません。>

愛する信仰の家族のみなさん! 主イエス様の十字架の力は罪を悟らせる力だと申しました。すると、**私たちが罪を悟っているのか、そうでないのかをどうやってわかるのでしょうか。それは私たちがほかの人に接する態度からわかることができます。つまり、自分の罪深さを悟った人はほかの人をさばきません。いや、さばくことができません。なぜなら、罪人が罪人を裁くことができないからです。** イエス様は姦淫した女を捕まえてきて石打しようとしている人々に”あなたがたのなかで罪のないものがさきに石をなげなさい”と言われました。しかし、だれもその女に石を投げることはできませんでした。事実彼らも石打ちされるべき罪人だったからです。ですから主の十字架の愛を経験した人は自分を義人だと思いません。ですから、なおさらほかの人をさばく資格が自分にはないこともよく知っています。主の十字架の前で自分の罪がどれだけ大きいのかよく知っているからです。

私はイエス様を受け入れた時に”自分がこの世の中で一番の罪人”であること分かりました。これは決して謙遜の表現ではありません。私は実際自分がそれだけひどい罪人であることを可能性すら考えたことがない人でした。3代目の信仰の家庭で育てられ、わたしは周りから、そして友達から“やさしい、とってもおとなしい。立派だ。ほかの人たちの模範になる。鄭君は牧師になってほしい!”など恥ずかしいですが、たくさん良い話を聞きながら育ちました。ですから、自分が当然善良で、模範となるものだと思い込んで、この世には悪い人たちがばかりだと考え込んでいました。これこそが神様の前でまさに大きい罪だったのにもかかわらず、私は人格的にイエス様に出会う前まではそれをわかりませんでした。今も全然牧師の資格がないものなのに、ただ主イエスキリストの十字架の哀れみと御恵みと赦しのゆえに牧会をさせて頂いていることをいつも感謝しております。

愛する信仰の家族のみなさん! たまに他のクリスチャンの方々と出会う時、意外と私のような人々たちがよくいることに気がきます。教養と品位のある、そして情熱をもって熱心に仕えている彼らは、罪人のような人を見るとまるで、むしをみているように冷たいです。顔をしかめて、近づこうともせず、話しをかけようともしません。そうしながら、心ではさばきます。自分の欲は心にためておきながら他人の欲については敏感になって非難します。自分の偽りと偽善はもっていながら他人の偽りをみると怒ります。自己中心で、自分勝てなのに、そのような人を見るとさばきます。しかし、我々の主の目では我々みんな同じ罪人にすぎません。むしろ、自分自

身がもっと罪人であることを教えます。私たちが十字架の力で生まれ変われば一番先にこれを悟ります。そして、これを悟ってからようやく十字架を知る人になります。そういうわけで、他人に対して言う言葉がなくなるのです。

今日から、特に主の受難週を過ごしながら、特にマタイの福音書7:1-5節の御言葉をよく実践しましょう。イエス様に出会い、十字架の愛を体験した人は自分の罪を悟ります。そして、自分を義人だと思わないで、なおさら他人をも裁きません。イエス様の十字架の御力によって自分の罪深さをよく分かっているからです。そのような人は会うたびに恵みを受けます。その人の姿からこそ、真のイエス様の十字架の恵みと愛を知ることができます。結局、神様はその人たちを用いて天国のような教会を立てて行って下さいます。願わくは、私たちの教会もそのような教会となりますように切に願います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!私たちはイエス様の十字架の力は他人ではなく、自分の罪を悟らせる力であることを教えられました。そして、その十字架の主の御前で自分の罪を日々悟られる人は決してほかの人に対してむやみに判断しないことも学ばされました。

## <2.イエス様の十字架は神様の恵みと愛を悟らせる力です。>

しかし、みなさん!もし十字架が私たちの罪を悟らせる事にとどまってしまうとどうなるでしょうか?

我々の信仰がいつもここでとどまってしまうなら、我々は耐え難くなると思います。なぜなら、我々はあまりにもたくさん罪のため恥ずかしいからです。しかし、イエス様の十字架の力は我々の罪をクリアに悟らせてくださると同時にあれだけ罪深い我々をどれだけ愛してくださるのかを悟らせます。我々の罪は‘自分’が犯したのに、神様は十字架によってその罪の代価をひとり子イエス様に負わせました。我々罪人に向かっているこの神様の愛と恵みが信じられることも十字架の力なのです。

クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!私たちは‘恵み’という言葉をよく使います。恵みとはなんでしょうか。恵みには必ず二つの内容が含まれています。一つ目は、‘受ける資格がまったくない’ことで、もう一つは‘あふれるばかりの愛を受けた’これはつまり、‘受ける資格がまったくない人に満ち溢れる愛が注がれること’これがまさに恵みと言うことです。イエスキリストが十字架に付けられなければならなかったとは、私はどれほど罪が深く、神はどれほど愛が深いのだろうかとはっきりと示して下さいました。わが主の十字架の前で自分がどれほど愛されている存在であり、尊い存在であるか忘れてはいけません。つまり、我々はイエスの価値があるのです。何かを買う時、100円するものは100円で買います。5億円で買ったものには5億円の価値があるでしょう。私のために神が御子イエス様を代価として払って買われたのであれば、私たちにイエスの価値があるわけではないでしょうか。みんなが自分を非難し、無視しても、そのために自己卑下に陥ったとしても、自分にイエスの価値があるという事実は変わりません。この事実一つだけでも正直に向き合うなら、それだけでも私たちの人生は完全にひっくり返ります。これがまさにイエスキリストの十字架の福音の愛の力です。

聖書は我々がどんな神様の恵みを受けたかを教えています。イザヤ書53章 4-6節では 我々の自分の罪をイエス様が身代わりにされた恵みを教えています。“まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。だが、私たちは思った。彼は罰せられ、神に打たれ、苦しめられたのだ。しかし、彼は私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向って行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた。”

ローマ人への手紙5章6-8節の御言葉は、罪人である私のためにキリストが十字架にかかってくださった恵みを語っています。“私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。正しい人のためにでも、死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人があるいはいるでしょう。しかし私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。”

## <2-2.愛なる神の愛の計画>

\*なぜ父なる神が御子イエスキリストをこの世の罪のいけにえとして十字架につけられるよう計画し、御子イエスキリストは最後まで十字架につけられるほど従ったのでしょうか。聖書はこのように教えて下さっています。

エレミヤ書31:3-「主は遠くから、私に現われた。永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに誠実を尽くし続けた。」

ヨハネの手紙第一4章9-11節では“神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに 示(しめ)されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供(そな)え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちがまた互いに愛し合うべきです。”

第一ヨハネ4:7-8「愛するものたち、私たちは互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。愛のないものに、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。」

主の十字架はただ我々を愛しておられた神の愛のためでした!

愛する信仰の家族の皆さん! イエスキリストの十字架は決して偶然ではありません。神様はわざわざご自分の犠牲を計画されたのです。そして自分の十字架になる木を植えさせました。そして自分の手にさし込まれる釘が造られるために鉄工所(てっこうじょ)をこの地において下さいました。イエス様を裏切ったイスカリオテユダでさえ目的をもってある女の胎内で組み立ち、生まれさせました。それだけではありません。ポンテオピラトがエルサレムに転勤されるように政治の組織まで動かした方もイエスキリストでした。

いくら残酷な犯罪人だとしても生まれる前からこの世の中で一番残酷な死刑で死ぬと定(さだ)められませんでした。そんなことをイエスキリストはなぜそうされたのでしょうか。それはたった一つの理由のためでした。私たちのためでした。そして神様が創造されたすべての人類のためにそうなされたのです。神なるイエスキリストはいくらでも十字架の苦しみをさけられました(ヨハネの福音書10:17-18)。しかしイエス様はそうしませんでした。苦しみの杯の前で、なやんで死にそうでしたが、イエスキリストはその苦しみの杯を避けませんでした。そうできないからではなく十字架を避けませんでした。

ヨハネの福音書3章16節にはこの世を造られた神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためであると教えています。

“神様がご自分のひとり子をお与えになったほどに”英語聖書では“**For God so loved the world!**”だと訳されています。これは神様がイエスキリストの十字架を通して私たちにを見せてくださる最高の愛の表現でした。ですからもし今も生きておられる神様が本当に私たちを愛して下さっている証拠が見たいなら主の十字架を見上げてください。主の十字架は神様がどれだけ私たち一人一人を愛して下さったのか、そして今もなお、将来も愛して下さるのが一番よく分かる近道です。

あるクリスチャンの方から“先生。私はイエス様を信じていてもあまり受けた祝福がありません。”と聞いたことがあります。イエス様を信じていると言いますが、イエス様の十字架の贖いの御力によるイエス様をまだ知らない方も知れません。本当にイエス様の十字架の力を知り、信じている人なら、自分がイエス様を信じてどれだけたくさんの祝福を受けたのか、神様がどれだけ自分を愛して下さるのか、知らないはずがありません。私たちは自分たちの生活においてものごとくうまく行く状況をみながら神様の愛と恵みを判断しようします。物事がうまく行くと“神様は自分を愛しているかも”と思い、うまく行かないと、“神様はどうしてこんなに私を苦しくさせるのか。”と反問しながら神様の愛を疑います。

その人はイエスキリストの十字架の力によってイエス様を信じていることではありません。神様の愛は毎回確認すべき項目ではなく、すでに確証(かくしょう)された事実です。さきほど、読んだ御言葉をつかんで信じましょう。

“しかし私たちがまだ罪人であった時、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。”(ローマ人への手紙5:8)いまだ目に見えることをとおしてのみ祝福をはかる人々がいるでしょう。しかし、神様はすでに私たちに最大な祝福(贖いの恵み)を与えてくださり、それがイエス様の十字架の上で確証されたことを信じましょう。

イザヤ書1章18節の“さあ、来たれ。論じ合おう。”と主は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」という御言葉は正しいです。

自分の罪を深くさとり、イエス様の十字架によって罪赦された人は緋のような赤い罪が本当に白い雪のように赦されることができるのです。愛するみなさん! もしかすると私たちが告白し、表わしている罪はほんのわずかかも知れません。みなさんの罪が全部さらけだされるならどんなに恐ろしいことでしょうか。今までみなさんを尊敬していた人々がみなさんをどう思われるのでしょうか。神様の御前ではどうでしょうか。御国に入った時、みなさんの過去の記録が全部残っているなら、どんなに心苦しいでしょう。しかし、みなさん! 心配しないで下さい。みなさんの罪はすでに十字架の血潮によって消されました。私たちは偽善者ではありません。私たちは完全に赦された人たちです。“幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。(詩篇32:1)”アーメン!

天国に行くと、罪がおおわれて洗い清められたことが一番の祝福であることがお分かりになると信じます。ほかのどんな祝福も意味がありません。物質の祝福、健康の祝福、成功の祝福、もちろん、全部大切ですが、天国で罪赦しの祝福こそ尊いものではありません。御国に入る前ですでに罪赦しの恵みこそが一番の祝福であることを信じるみなさんとなりますようお祈り申し上げます。イエス様の十字架の力はそれを信じる人々に神様の愛と恵みに対する確信を与えてくださいます。我々の罪が十字架の上で、完全に赦され処理されたという確信と信仰を与えてくださいます。みなさんは今このすばらしいイエスの贖いの恵みを信じ、味わっていますか。罪を悟ることは神様のたしかな御心であり、神様の御力によるものですが、罪責感にとらわれて生きることも決して神様の御心ではありません。

今日のメッセージを終わらせます。十字架は神様の愛を表わす一番の神様の力であり、象徴です。十字架につけられたイエス様は神様のひとり子です。神様は愛しておられるイエス様を我々の罪のかわりに十字架にわたされました。想像もつかないほどのすばらしい愛はすべての人を変える神様の力です。神様の御前でみなさんの以前の生活がどうであったか、どんな出身だったのか、どれも神様の御前に出るのに妨げとなりません。十字架の愛はすべてを受け入れ変える力です。(ローマ8章35節-39節)

<適用: 惜しみなく受けているキリストの愛を惜しみなく分け与えましょう! > (第一ヨハネ4章 20-21節)

十字架で死なれるイエス様でさえ、十字架にかかれる前夜(ぜんや)、愛する弟子たちに最後になんとおっしゃいましたか。ヨハネの福音書 13:34-35節です。“あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。私があなたがたをあいたように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたが私の弟子であることを、すべての人が認めるのです。”イエス様もこの地に来られて、はじめから最後まで見せてくださったことは愛そのものでした。愛はイエスの弟子たちがつけてあるべきのパッチ、つまり生活そのものであるべきです。

イエスキリストの受難を覚え過ごす一週間もう一度、その十字架の罪赦しの恵みを受けましょう。そして十字架の神の愛を受け入れましょう。十字架の力によって罪を悟り、罪赦された人こそ、神の愛を知り経験された者です。その人は悔い改めとともに祝福の確信が与えられます。どんな状況においても神様は私を愛しておられ、私を祝福して下さると言う確信と信仰をもって生きます。このイエスの十字架の御力と愛と恵みが我々みんなに、そして我々のクリスチャンプレイズチャーチのうえに注がれますよう主イエスの御名によって祝福します。アーメン。!